在宅医療の推進　シート

現状

ステージ 1

昨年度の当懇話会での意見

A)　訪問診療に携わる医師の数を増やす必要がある。
B)　訪問診療を増やすための啓発が必要。
C)　訪問看護師、訪問薬剤師、ヘルパー等の養成には時間がかかる。
D)　かかりつけ医が、在宅でも継続して診ていくことが重要。
E)　多職種連携の推進は重要。
F)　急性期病院の救急診療を気軽に利用できる体制を作ればよい。
G)　訪問看護ステーションについて、24時間対応できていないステーションもある。
H)　開業医同士が連携して、24時間対応することは難しい。
I)　在宅患者の情報共有についてハードの整備とともに共有すべきフォーマットの共通化などソフトの整備も必要。
J)　救急病院は充実している。情報をやりとりしやすいような整備が必要。
K)　在宅患者のレスパイト入院を広げられないか。

提供体制

●訪問診療を実施する診療所数 146
　うち在宅療養支援診療所数　105
●在宅療養支援歯科診療所数　48
●在宅患者調剤加算薬局数　111
●在宅療養支援病院数　6
●在宅療養後方支援病院数　3
●訪問看護ST数　52
●退院支援加算を算定する病院　20
●入院機関とケアマネ連携数　1,725
●在宅看取りを実施する診療所数 22

短期（3年後）

ステージ 2

めざす姿

・市域・圏域の課題の共有
・在宅医療に係る医療従事者の理解促進・役割の確認

課題

①在宅医療にかかる人材の育成・啓発

②顔の見える関係づくり

具体的な対応策

①医療従事者に対して講習会等を開催し、在宅医療に関する普及促進を図る

②顔の見える関係の中で地域における課題を抽出し、互いの役割を確認する。

中期（6年後）

ステージ 3 4

めざす姿

・切れ目のない医療体制の構築
・住民の生活動線に沿った（市域を越えた）連携

課題

①退院支援・後方支援のルールの設定

②市域を越えた連携

具体的な対応策

①退院支援・後方支援のルールの検討

②圏域全体としての運用システムを検討

あるべき姿

●在宅医療を行う医療従事者の拡充

●在宅医療の需要（住民のニーズ・状態）に応じたサービスの提供

●地域包括ケアシステム構築に向けた体制の整備

※提供体制

●訪問診療を実施する診療所数 239
　うち在宅療養支援診療所数　162
●在宅療養支援歯科診療所数　67
●在宅患者調剤加算薬局数　155
●在宅療養支援病院数　9
●在宅療養後方支援病院数　3
●訪問看護ST数　80
●退院支援加算を算定する病院　29
●入院機関とケアマネ連携数 2,820
●在宅看取りを実施する診療所 36

※
本推計値は、現状の提供体制に大阪府地域医療構想で推計された2025年の在宅医療等の医療需要人口の増加率を乗じたものです。

基金事業の提案

あるべき姿の実現のため、圏域の実情や取組みの進捗を踏まえ、既存基金事業の改善、新規事業の提案